

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

<今年がガリレオ・ガリレイ生誕 450 周年です>

望遠鏡を星空に向けて、月の凹凸や太陽黒点、金星の満ち欠けや木星の衛星などを発見し、宇宙の真の姿を人類に初めて見せてくれた人物、ガリレオ・ガリレイ。この近代科学の父とも位置づけられる偉大なイタリア人が生まれたのは、1564 年のこと。今年がガリレオ生誕 450 年の記念すべき年です。宗教裁判によって命の危機にさらされ、地動説を撤回させられますが、彼が打ち立てた実験主義は彼の死後(1642 年)も、ヨーロッパの研究者たちに継承されていきます。

今回はこのガリレオと弟子たちの活動を食やワインとの繋がりという視点から見ていきます。まず、ガリレオは主要著作の一つ『偽金鑑識官』(1623 年)の中で味覚について原子論的な観点から次のように述べています(一部省略あり)。

降下する微粒子は、舌の表側の上で受け止められたのち、舌のなかに浸透し、舌のなかにある水分と混ざり合っ、味覚を引き起こすのだ。その味覚が快いか不快かは、さまざまな形状をもったそれら微粒子のさまざまに異なる接触の仕方に、さらにはそれら微粒子の数の多寡や速度の大小に応じているのである。そして位置に関して言えば、舌は適切な場所にあることがはっきりわかる。舌は降下してくる衝撃を受け入れるために下方に横たわっているのである。



ガリレオは自然学の研究手段として「感覚」を重視しました。当時の学問の主流は権威としてのギリシア哲学者アリストテレスの著作に無批判的に従っていただけで、ガリレオの感覚に基づく経験・実験に基づく手法は受け入れられないものでしたが、ガリレオのこの方法論が近代科学への道を切り開いたのは言うまでもありません。その「感覚」がどのような仕組みで成り立っているかを説明している箇所の一部がこの引用です。また化学が存在しない時代であることを考慮すれば「味覚」の成り立ちがうまく説明されています。

ガリレオの食事情を知る手がかりが一つあります。それは彼の娘、修道女マリア・チェステが残した父親宛の百通を超える手紙です。その中にはトスカーナの伝統菓子カントゥッチなども登場します。また、ガリレオが娘に「水牛の卵」(モツァレッタ・チーズのこと)を送ってくれると知らせて来たのに対して、本当に水牛の卵だと思ってしまい、大きなフリッタータ(オムレツ)を作ろうと考えてしまったという逸話など、彼女の父親に対する愛情があふれています。



ガリレオが残した「ワインは水と光の合成物である」という言葉について説明しているのは、ガリレオ派の学者ロレンツォ・マガロッチィ(1637-1712 年)です。また、メディチ家の医師でもあったガリレオ派の学者フランチェスコ・レーディ(1626-1698 年)は、『トスカーナのバックス』(1685 年)という詩作品で、酒の神バックスがトスカーナを巡って五百にも及ぶ各地のワインを試していき、最後にはモンテプルチャーノ・ワインに栄誉を授けるまでを描いています。

イタリア語検定協会 会長 小林 満
(2014 年 4 月 6 日に福岡で開催のイタリア語検定協会イベントでの講演の要旨です)

Come aumentare la capacità di comprensione auditiva: alcuni consigli pratici

Certamente ai fini di una buona comprensione della lingua parlata sono innanzitutto indispensabili sia una consistente padronanza lessicale, sia una sufficiente conoscenza della grammatica. Conoscere i vocaboli e le forme grammaticali rende possibile il loro riconoscimento all'interno del testo parlato, facilitandone evidentemente la comprensione globale.

Nelle prove auditive d'esame di livello più basso, soprattutto per quanto riguarda il quinto e il quarto livello, è soprattutto tale capacità ad essere testata. Pertanto un'adeguata e costante esercitazione all'ascolto di conversazioni e brani semplificati, facilitati da una pronuncia chiara e dall'uso di un linguaggio e di un'intonazione standard, possono essere a tali livelli sufficienti.

Col progredire dello studio, però, diventa indispensabile cimentarsi sempre più nella comprensione della lingua naturale, quella cioè effettivamente utilizzata dai parlanti nativi. Ciò implica, oltre a un notevole aumento della difficoltà lessicale-idiomatica e grammaticale a cui è indispensabile adeguare le proprie competenze, il trovarsi di fronte a un parlato molto più veloce, a flussi fonetici ininterrotti dove la percezione e il riconoscimento anche di parole note si fa assai più arduo (soprattutto nel caso di brevi monosillabi, come articoli, preposizioni e pronomi), a intonazioni regionali o locali cui non si è abituati (quando non all'uso di termini addirittura dialettali), alla presenza di frasi non concluse e spezzate frequenti nel linguaggio parlato, ecc...

A partire dal terzo livello, e via via sempre più nei livelli superiori, nelle prove auditive d'esame ci si

avvicina pertanto gradualmente a tale linguaggio naturale, fino a raggiungerlo pienamente (pur restando per lo più entro i confini dell'italiano standard) nel secondo e nel primo livello.

Per raggiungere le competenze linguistiche adeguate è quindi necessario un esercizio paziente e costante. Ovviamente la possibilità di praticare la conversazione con parlanti nativi (certo ancor meglio se in Italia!) è di grande utilità a tale scopo, così come uno specifico e regolare esercizio con la guida di insegnanti esperti. Per esercitarsi da soli è comunque indicato l'utilizzo di materiale autentico (programmi radiofonici o televisivi, film non in dialetto, audiolibri...) o semi-autentico (cioè appositamente realizzato per chi studia la lingua utilizzando un linguaggio naturale) reperibile in CD o DVD sul mercato.

Nell'affrontare ascolti autentici, anche di notevole difficoltà, non bisogna mai scoraggiarsi, ma procedere con pazienza: 'aggrapparsi' (come in una scalata in montagna!) alle parole che si conoscono, sforzarsi (ascoltando e riascoltando) di riconoscerne sempre di più, esercitare al massimo la propria capacità di intuizione. Anche trascrivere e leggere a voce alta un brano più volte ascoltato, sforzandosi di imitarne pronuncia naturale e intonazione, e poi riascoltarlo di nuovo, può essere un esercizio assai utile. Progredire nella comprensione auditiva fino a livelli di competenza superiori richiede certo del tempo e un po' di fatica, ma con il necessario impegno e un esercizio costante è un traguardo sicuramente raggiungibile, in grado di contribuire fortemente al miglioramento della vostra capacità linguistica generale e in particolare del vostro Italiano parlato.

(訳)リスニング能力をいかに向上させるか—実践的アドバイス

話し言葉を十分理解するには、豊富な語彙力やある程度の文法知識が何より不可欠です。語彙や文法に通じていれば、話し言葉を聞きながらそれらを認識することが可能になると同時に、総合的な理解の大きな助けとなります。

初級レベル、特に四級と五級のリスニング試験でもつばら問われるのはそうした能力です。したがって、これらのレベルにおいては、明瞭な発音や標準語、及び、標準的なイントネーションが用いられる簡単な文章や会話を聞き取る訓練を適切かつ継続的に実施するのが良いでしょう。

しかし学習が進むにつれて、自然な言語、すなわちネイティブスピーカーが実際に話す言語の理解に努めることがますます肝要となってきます。これは、語彙や表現、また文法面での難度が著しく上昇するために、それに応じた能力の増強を図る必要に迫られるというだけの話ではありません。それらに加え、遥かにスピーディーな話し言葉や、知っている単語を聞き取ったり認識することすら一筋縄ではいかなくなるような、とめどない音の流れ(特に、冠詞や前置詞、代名詞等、単音節から成る短い単語のケース)、方言特有の言葉の使用とまでいかないまでも、地方や土地特有の聞き慣れないイントネーション、また、口語に多い未完結で断片的なフレーズ・・・等に遭遇する可能性も意味しているのです。

そのため、三級より上のレベルに向かうにつれて、リスニング試験はそうした自然な言語へ徐々に近づいていき、二級と一級では完全にその領域に到達します(それでもイタリア標準語の域には概ね収まっていますが)。

したがって、試験で求められる言語能力を獲得するには、根気強く継続的な訓練が必須となります。当然ながら、ネイティブスピーカーと実際に会話をする機会(勿論、それがイタリアであれば尚更良い!)や、専門の訓練を受けた教師の指導のもとで目的に特化した練習を定期的に行うことは非常に有益なことです。独学での練習には、市販のCDやDVDで入手可能な本物の教材(ラジオやテレビ番組、方言でない映画、オーディオブック)、あるいは本物に近い教材(つまり自然な言語の習得を目指す学習者を対象に開発された教材)の利用がお勧めです。

難易度の非常に高いリスニングに挑戦する際も、怖気付くことなく、辛抱強く継続する必要があります。知っている単語に“しがみついたり”(ロッククライミングみたいに!)、繰り返し聞いて認識能力をより一層深めるための努力を重ねたり、直観を最大限に働かせるのです。文字に書き起こしてみたり、耳で聞いたフレーズを何度も声に出して読んでみたり、自然な発音やイントネーションを真似てみたりした後で、もう一度聞き直してみることも非常に有効でしょう。リスニングの理解力が進歩し、より上のレベルに達するには、当然時間もかかり多少の苦労も必要ですが、ある程度の情熱をもって継続的に取り組みさえすれば間違いなく達成可能ですし、総合的な言語能力のなかでも特に会話能力の向上に大きく寄与することになるでしょう。

(本翻訳は35回検定で1級に合格された方にお願ひしました。)

検定ニュース

◇2014年春第38回試験志願者数報告 (受験者数/志願者数)

	準2級	3級	4級	5級	合計
札幌	2/3	13/13	14/17	12/15	41/48
仙台	2/2	8/9	6/11	7/9	23/31
東京	124/136	176/217	175/235	126/175	610/762
横浜	14/17	29/39	35/41	38/44	116/141
金沢	2/2	4/4	3/6	1/3	10/15
名古屋	20/23	24/27	34/39	34/39	112/128
京都	15/17	39/43	40/44	36/41	130/145
大阪	20/21	50/60	97/109	79/92	246/282
岡山	4/4	8/8	8/8	8/9	28/29
広島	3/3	7/7	7/8	4/4	21/22
福岡	12/13	16/18	21/25	20/21	69/77
宮崎	1/1	0/0	4/4	3/3	8/8
那覇	0/0	2/3	1/1	2/2	5/6
ローマ	1/2	5/8	3/3	1/1	10/14
ミラノ	13/13	14/15	8/8	2/2	37/38
計	233/257	395/471	465/559	373/460	1466/1746
合格数	79 (34%)	123 (31%)	203 (44%)	251 (67%)	656 (45%)

●マークシートのマークの仕方
塗りつぶすまたは ○枠をなぞる
のふたとおりがあります。

準2級が加わったことにより、各級のイタリア語表記が変更になりました。()内旧表現

5級 Livello quinto (Livello cinque)
4級 Livello quarto (Livello quattro)
3級 Livello terzo (Livello tre)
準2級 Livello pre-secondo (—)
2級 Livello secondo (Livello due)
1級 Livello primo (Livello uno)

5級の受験者が気づかれました! すばらしいです。

▼38回試験問題の訂正とお詫び 5級において:N45/46の解答選択肢の前にN45, N46の表示がありませんでした。また、最後の長文の出だしがI signoriとあるべきところ Il signoriと冠詞に誤植があり、設問のN51, N52の文中の人名が Armandoであるべきところ Arnaldo となっております。大変申し訳ございませんでした。人名は会場でアナウンスいたしましたが、今後はチェック体制を強化するとともに、訂正がある場合は、早めにお知らせできるよう対応致します。申し訳ございませんでした。

第 38 回検定でのアンケートから

【ご要望の多かった内容やご意見・ご感想】

①会場は快適である(33件) ②検定実施の回数をふやしてほしい(24件) ③検定対策の教材がほしい・出題のミスプリントはやめてほしい(各19件) ④会場に時計があるといい(16件) ⑤級別過去問題集(14件) ⑥過去問アプリを試してみたい(12件)・・・でした。

⇒①は嬉しいご感想です。これからも快適に受験していただけるよう、頑張っていきます。②は毎回出るご要望ですが、残念ながら現体制受験者数では対応できかねるのです。ご理解くださいますよう、お願いいたします。③は過去問題集が一番適切かと思いますが、努力をいたします。また、ミスプリントにつきましては、重々お詫びいたします。今回はチェック体制を強化いたします。④は会場を借用している関係で設置されていないところがほとんどです。今回残り時間を板書してみた会場もありましたが、おおむね好評でしたので、全会場で実施するかどうか検討いたします。⑤全体販売数が少ないため代替方法のひとつとしてアプリを提供することになりました。そちらも今後充実させてまいりますし、出版の方も検討させていただきます。⑥はぜひ試してください。結構楽しい感覚でお勉強していただけます。よろしくお祈りいたします。

【貴重なアドバイスありがとうございます】

試験の説明時に解答用紙が配ってあった方がわかりやすいとのご提案がありました。

⇒次回より反映させていただきます。

【気になる受験者について次のような感想がありました】

受験中に飴玉を食べている人の噛み砕く音が気になった・ため息、独り言、音読する人が気になった・強い香水で気分わるくなった・リスニング中に指をポキポキ鳴らす人がいた。

⇒人には癖があるものですが、ちょっと周りをきづかう気持ちを、よろしくお祈りいたします。

事務局よりホームページ活用をお願い www.iken.gr.jp

イタリア語検定試験のお知らせだけでなく、イタリア関係の情報・学校・リンク集など情報を満載しております。また、情報交換の場として掲示板をご用意しています。どうぞどしどしご活用いただければ幸いです。ご要望等、メール (info@iken.gr.jp) でお寄せください。

☆受験体験記 イタリア語検定3級を受験して

私がイタリア語を始めたのは昨年4月、本格的な受験勉強を始めたのは試験2ヶ月前の1月初旬からでした。最初に問題集を解いた時は、想像以上に出来が悪く落胆しました。学校では、イタリア人の先生や友人と毎日会話しているのにも関わらずリスニングの点数はひどいものでした。また文法は広範囲に渡り出題されており、難易度が高く総合力が試される試験だと思いました。

試験学習方法は、過去問題集を繰り返し使い問題や形式に慣れるよう努力しました。時間に限りがあるので、スピーディーに回答を選ぶということも意識しました。

しかし作文については、なかなかコツが掴めずに苦労しました。その中で私がみつけたやり方は、自分の中でテンプレートをつくるということでした。慣用句や独特な言い回しを覚え文字数を稼いだり、動詞のボキャブラリーを増やすことで段々と満足の出来る作文を書くことができるようになりました。

試験当日はとても緊張しました。試験に合格しなければ、今まで勉強したこと全てが認められないような気がしていました。会場には老若男女、多くの受験者がいらっしやいました。私同様に、みなさんからもピリピリとした試験特有の緊張感が感じられました。

まずリスニングの試験では、緊張のせいか満足のいく出来ではありませんでした。一瞬動揺しましたが、文法で巻き返すぞと心を入れ替え、慎重かつ迅速に問題を解くように意識しました。その甲斐もあり、作文には十分な時間を充てることができました。しかし全て終わったのは終了5分前でした。名前、受験番号、マーク漏れがないことだけを確認するのが精一杯でした。改めて、イタリア語検定3級の難易度の高さを知りました。

試験はスキルアップができるチャンスではないでしょうか。問題を解いているうちに、新しい発見があったり長文問題がハートフルな内容であったりするので、「もっと理解したい」、「この言葉を実際に使ってみよう」、「この話をイタリア人と話したい」と学習意欲が湧くことが何度もありました。なので試験勉強だからと記憶するだけではなく、ちゃんと身につくよう取り組むことが大切だと思いました。

今回3級を受験してみて、大変良い経験ができたと思っております。イタリア語を学ぶ上での一つの目標になりますし、より質の高い学習ができるきっかけになると思います。

次は準2級を目指し日々精進していきたいと思っております。

(水野 真理子)

☆受験体験記(会場での受験者アンケートから)

- 大学でイタリア語をはじめ、興味を持って自分でも勉強して受けた。また頑張りたい。(5級)
- 勉強していたつもりが、全然できなかった。リベンジします。(5級)
- イタリア語学習のよい動機となっている。検定が未長くつづきますように。一歩ずつ階段をあがり、いつかは1級に挑戦したい。(5級)
- とても難しいが、問題形式が面白い。
- 独学で勉強しているが、やはり一人での勉強はなかなか難しいと思った。
- 大学で第2外語でイタリア語をとっているので学習の進化を問いたかった。全力を挙げて戦えた。次は4級にチャレンジする。
- 私の勉強方法がバランスが悪いのでしょうか。過去問8回分やりましたが、まだまだです・・・トホホ
- 学習者の実力発揮の機会を設けてくださり、ありがとうございます。職場(ホテルフロント)のふたりで1月から学習をはじめた。これからも学習を続けたいと意気込んでいる(5級)
- もう少し簡単なレベルがあればいいのと思うけど、黙って5級受かる程度に勉強しろってことですね。はい、すみません。
- 1年半ばかり勉強を始め、この3月に5級を受験した。1か月半でこれだけスキルアップしたことは、受験という目的が一因となっている。
- 正直3級を受験するには力不足だと思ったが、家族に「申し込まないと勉強が進まないよ」と言われて、合否は気にせず受けようと思った。検定がペースメーカーになってくれて、目標がなかったら決して条件法や接続法の勉強は進まなかったと思う。

<2014年度の試験日程ご案内> ◆第39回 2014年10月5日(日) ◆第40回 2015年3月1日(日)

発行: 2014年4月5日 発行人: 特定非営利活動法人国際市民交流のためのイタリア語検定協会

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町8-18-4F ☎03-5428-5630 FAX.03-3463-4901

E-mail: info@iken.gr.jp